

創立50周年記念式典で決意を新たに

(協)群馬県建築設計センター

11月15日、前橋市・前橋商工会議所会館で創立50周年式典を開催。組合員や関係団体、行政関係者など約130名が出席した。

水口栄理事長の挨拶の後、「50周年のあゆみ」と題して、スクリーンにこれまでの受注物件や組合活動の様子を上映した。次いで、組合発展に貢献してきた歴代役員7名に水口理事長から感謝状を贈呈した。式典の後、祝賀会を行い、出席者は50周年の節目を祝った。



盛大に開催された記念式典(左)と祝賀会(右)

館林市産業祭に溶接体験コーナーを出展

館林金属工業団地(協)

11月20日、館林市・つつじが岡公園にて開催された館林市産業祭のものづくりブースに溶接体験コーナーを出展した。産業祭には市内外から多くの来場者が訪れ、溶接体験には女性や子供の希望者も多く、用意した40名分のゴーグルが閉会時刻前に配布終了となるほど盛況であった。



組合員のレクチャーで隅肉(すみにく)溶接を体験



組合員の得意技術を紹介するパネルも展示



参加者は、熱や火の粉を防ぐ防護具を着用し、普段では経験できない溶接体験を味わった。

オンライン練成講座を開催

みらい倶楽部連合会青年部

11月24日、ぐんまみらい信用組合の青年部組織であるみらい倶楽部連合会青年部は、「情熱教授のビジネス経済学～景気の動向～」と題した講座をオンラインにて開催。講師はマクロ経済学者の岩田年浩氏。

岩田氏は、アメリカの中間選挙、ロシアのウクライナ侵攻、中国の習近平政権など世界の動向を解説した。世界に混乱が広がる中で、日本も危険な状態にあることを、円相場、人口急減、軍事情勢などの面から示した。

こうした中、経済・経営状態の不振を覚悟した作戦が求められると述べ、「好況よし、不況またよし」という松下幸之助の言葉を引用し、好況の時にはない視点で自社を見直すよう説いた。



米、露、中などの情勢を解説

Local Area News

組合HP作成事業をスタート

(協)群馬県機械設備工業会

11月28日、前橋市・組合事務所で組合HP作成に向けた第1回目の事業運営委員会を開催した。本HPは、組合員・業界関係者による実務上の活用、一般個人に向けた業界のPRを目的としており、事業実施にあたり、中央会の組合等機能強化・価値向上プロジェクト支援事業を活用している。

今回の委員会では、(株)群馬マーケティングセンター代表取締役・沼澤啓吾氏を招き、HPコンセプトの策定方法等につきアドバイスを受けた。その上で、検討事項を洗い出すとともに、今後の委員会運営スケジュールを決定した。



HPに有用なマーケティング手法の解説を受ける委員

伝統絹織物「館林紬」の アートパネルづくり体験

館林織物連合(協)

12月6日、館林市・館林ヒルズホテルにおいて、伝統絹織物「館林紬」のミニアートパネル作りのワークショップを同ホテルと共催した。約

20名の参加者たちは思い思いに生地を組み合わせて柄を作り、はがき大のパネルに作品を収めた。

同年5月にも、館林紬を活用したオリジナル御朱印帳作りのワークショップを同ホテルと開催しており、来年度も連携して企画を展開していく。



講師の指導を受けながら、生地を手を加え、仕上げていく参加者

ホテル内の装飾として活用しているアートパネルの作品展も併催された



小売事業者向けインボイス制度研修会 を開催

前橋中央通り商店街(振)

12月13日、前橋市・前橋テルサで消費税インボイス制度に関する研修会を開催した。講師は小林会計事務所所長・小林英伸氏。

まず小林氏は、消費税の仕組み、インボイスの要件を説明。小売事業者特有のポイントとして、販売相手が一般消費者か法人かによって整備が必要な帳票が異なる点を解説するほか、レジがインボイス対応となるか確認するようアドバイスした。さらに、経過措置や簡易課税制度を選択する際の注意点を紹介した。

最後に、緩和措置を政府が検討しているので、新聞やニュース、税制改正大綱等を注視するよう呼びかけた。



制度開始まで1年を切り、真剣な様子の受講者